

## はじめに

本書『障害の重い子どもの発達理解ガイド』（以下『発達理解ガイド』）は、乳幼児の発達段階や発達経路、発達全体の系統性を理解して、乳幼児のよりよい育ちを目指すだけでなく、障害の重度な子どもの学び、その積み重ねを確かなものとするためのガイドである。

### (1) 本書作成までの経緯

筆者らは、知的障害と肢体不自由が重度な重複障害の子どもとの授業や活動の実践を積み重ねてきた。その経験を手がかりに、2014年10月に『障害の重い子どもの目標設定ガイド』（以下『目標設定ガイド』）を刊行した。

この『目標設定ガイド』によって、障害が重度であっても、国語や算数（数学）の教科の枠組みで身につけたい力を把握し、子どもの学びを教員や保護者、関係者で共通理解していくためのツール（「学習到達度チェックリスト」）を開発し、提案した。

そして、全国各地で「障害のある子どもの目標設定と授業改善のセミナー」を開催し、多くの先生方と『目標設定ガイド』の良さや課題について情報交換を積み重ねてきた。そのなかで、セミナーの参加者から「乳幼児の発達段階の意義について学びたい」「発達の筋道や系統を解説した書籍はないか」という共通する声が多くあった。

また、乳児の発達研究はこの20年で大きく進歩し、乳児の視覚行動や注意、社会性の発達に関する研究が積み上げられてきている。発達研究のキーワードのひとつに「共同注意」があり、2歳前までの重要な発達現象とされている。それは、他者とのかかわりやコミュニケーション形成の前提となる重要な発達現象であり、障害が重度な子どもにとっても目指したい目標の一つになる（徳永、2009）。

そこで、前作『目標設定ガイド』の続編として、発達の段階とその意義に焦点を当て、目標設定の根拠となる学びの順序性をよりよく理解するために、この『発達理解ガイド』を作成した。

### (2) 本書の構成

第1章では、子どもが学ぶとは何かを考え、学びの状況を把握することの重要性を指摘する。

第2章では、学びの状況を把握するためには、授業における目標やねらいが大切になり、それに照らして状況を把握することを取り上げた。この目標についての系統性を考える際に、発達の理解が必要になることを述べる。

第3章では、乳児の定型発達の概要とその特徴を概説する。さらに発達の相互関連や発達を促す大人の役割を取り上げる。

第4章では、発達段階ごとのつながりを図示した「段階意義の系統図 2019」（本書 37 ページ）を紹介し、『目標設定ガイド』『発達理解ガイド』の柱である発達段階の意義について、図を活用しつつ詳説する。

第5章では、事例を通して実態把握と目標設定のつながりを検討し、「段階アップのポイント 2019」（本書 65 ページ）を提示する。

第6章では、事例を通して発達段階の意義を踏まえた教科の目標設定と指導の実践事例を紹介する。

### (3) 本書の活用の仕方

まず、教科の視点での学びの状況把握を行う際に、子どもが示す行動が発達段階のどこに位置づくかの判断が必要になる。その判断を適切に行う場合に、発達段階の意義が活用できる。さらに、目標設定をする際に、発達段階の意義のつながりを示す「段階意義の系統図 2019」を活用して、教科の目標設定の根拠や妥当性を高めることができる。

この発達段階の意義のつながりを、より具体的に解説したものが「段階アップのポイント 2019」である。子ど

もの学びの状況に合わせて、該当する部分の発達段階の意義のつながりを理解する際に、これらのポイントが活用できる。

このような発達段階の意義のつながりを理解することは、前作『目標設定ガイド』を適切に活用するために欠かせない。

また、障害の重度な子どもの学び、その積み重ねを根拠あるものとするためだけでなく、乳幼児のよりよい育ちを検討する際にも、発達段階の意義やそれらのつながり、発達の系統図が活用できる。

#### (4) この取組みのミッション・ビジョン

前作の『目標設定ガイド』では、この取組みのミッション・ビジョンとして「子ども、特に障害のある子どもが、その能力や可能性を最大限に伸ばし、その子らしい『生きる力』を身につけ、その子どもなりの社会参加の実現を目指す」を掲げた。

我々の目指すところは、その子どもの能力や可能性を最大限に伸ばすための授業を担う教員を支援することである。教員が日々の授業の目標設定、授業展開、学習評価について自信をもって取り組めることを願っている。

#### (5) Web ページ紹介

このガイドを活用するにあたり、乳児の発達段階と行動の系統を示した「段階意義の系統図 2019」と「段階アップのポイント 2019」は、Web ページで参照して活用できる（詳細は本書 77 ページ参照）。なお、これらについては、必要に応じてバージョンアップしていく予定である。

- ・徳永豊（2009）『重度・重複障害児の対人相互交渉における共同注意』慶應義塾大学出版会。
- ・徳永豊（編著）（2014）『障害の重い子どもの目標設定ガイド』慶應義塾大学出版会。

2019（令和元）年 6 月  
徳永 豊・田中信利

\* 『障害の重い子どもの目標設定ガイド』 p.iv～vi より転載。